とちぎ米麦改良

令和4年5月
第126号

(公社)栃木県米麦改良協会
宇都宮市平出工業団地9番地25
☎(028)616-8700

これからの種子生産について

栃木県農政部生産振興課長　蓬田　　武

公益社団法人栃木県米麦改良協会並びに会員の皆様には、日頃から本県農政の推進につきまして、特段の御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本県の農業は、大消費地である首都圏に位置するという立地条件、農業者の高い技術力などの強みを生かし、米や麦、大豆の規模拡大や、施設園芸の高度化、露地野菜の生産拡大など、収益性の高い農業展開により、着実に成長してきました。

しかしながら、少子高齢化に伴う人口減少に加え、気候変動による自然災害の頻発化、新型コロナウイルス感染症の拡大による米の消費量の減少など、農業を取り巻く情勢は大きく変化しております。さらに、国では環境負荷低減に向けた取組を推進しており、農業における一層の生産性向上と持続性の両立が求められております。

本県の基幹作物である米については、これらの状況を踏まえ、栃木県農業再生協議会において、本県の水田農業の将来を見据えた、米の生産から販売までのあり方や消費拡大の取組を示した「栃木の需要に応じた米づくり推進方針」を令和３年12月に策定しました。今後は、本方針に基づき、関係機関・団体と一体となって収益性の高い水田農業の展開に向け、需要が見込まれるマーケットに的確に対応した米づくりや麦・大豆などへの作付転換も含めた水田フル活用に取り組んで参ります。

今後、こうした取組を一層推進するため、県として、令和２年４月に施行した「栃木県奨励品種の優良な種苗の安定供給に関する条例」に基づき、関係者の皆様とともに、生産の基本となる優良な種苗の安定供給を図って参ります。

特に、稲･麦･大豆の種子生産においては、「とちぎの星」や「ゆめかおり」など、需要が増加している品種・品目の生産拡大に対する迅速かつ柔軟な対応が求められるとともに、採種農家の高齢化や種子センターの老朽化なども喫緊の課題となっております。これらの課題に的確に対応し、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」を実現するため、優良な種子の安定生産の中核を担う貴協会並びに会員の皆様と連携し、種子生産体制の強化に向けた検討を進めて参りたいと考えておりますので、御理解と御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和３年産大豆の作柄及び令和４年産大豆の安定多収に向けたポイント

栃木県農政部経営技術課

１　令和３年産大豆の作柄概況

○収量
　148kg ／ 10a（平年 163kg ／ 10a）
○大粒大豆の１・２等割合
　60%（平年 72%）
○作柄
　並～やや不良

（収量・等級は農林水産省発表。等級割合は令和４年１月 31 日現在の速報値。）

■天候と生育

○播種時期（６月～７月）

播種作業については、６月の降水量が平年を上回っている地域が多かったものの（大田原：平年比 134%、宇都宮：平年比 139%、小山：平年比 72%）、降雨の合間に播種作業が行われ、苗立ちも比較的良好でした。

一方で、降雨の影響により播種が７月中旬になるほ場もありましたが、令和２年産のような播種断念は見られませんでした

播種時期の早晩による生育量に違いがみられ、播種が遅いほど草丈が低く、葉色もやや淡い傾向でした。

梅雨明けは、７月 16 日と平年（７月 19 日）よりやや早まり、そのため、中耕・培土等の管理作業は適期に行われました。

○開花期から子実肥大期（８月下旬～９月）

開花は、適期播種されたほ場では８月上旬頃から始まり、着莢数も平年並みでした。また、７月中旬に播種されたほ場では８月中旬以降に開花が始まりましたが、草丈は短く、着莢数は適期播種されたほ場に比べ、若干少ない状況でした。

８月中旬と９月上旬には一時的に低温・日照不足となったことで、植物の栄養状態に悪影響があり、小粒傾向となる一因になったと考えられます。

○成熟期頃（10 月～ 12 月）

適期播種されたほ場では、10 月上旬頃から葉の黄化が順調に始まりましたが、播種が遅れたほ場では、10 月上旬時点では青い株の状態が目立ち、莢肥大途中でした。

11 月に入り、収穫作業が開始されましたが、全体的にやや小粒傾向であり、青立ち株も見られました。

この時期にまとまった降雨がありました。

【アメダス地点宇都宮】
11 月　9 日　36mm
11 月 22 日　21mm
12 月　1 日　40mm

この降雨は、しわ粒の発生原因となり、一部地域では皮切れや剥皮粒の発生も見られました。

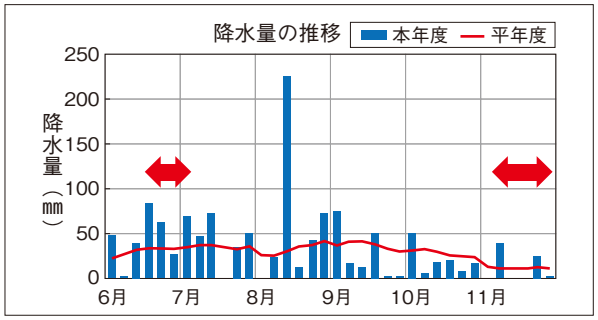
○病害虫雑草の発生状況

生育期間中の葉のべと病の発生は、生育初期から各地で見られました。薬剤防除の主な時期である８月に降雨が多かったことから、薬剤の効果が十分に発揮されにくく、収穫物に被害粒が見られました。

カメムシ類の発生は各地で確認され、粒の肥大や品質への影響がありました。また、生育中のコガネムシ成虫による葉の食害が多くみられました。

雑草関係では、各地で帰化アサガオ類の発生が確認されました。

【参考】生育期間の気象データ（宇都宮）



平均気温は平年に比較して６月は0.6℃高く、７月は0.3℃、８月は0.2℃と平年並みに経過しました。９月は－1.1℃低く経過しました。

月別の降水量は、平年比で６月は139％、７月は124％、８月は186％、９月は67％でした。８月中旬、８月下旬から９月上旬にかけてまとまった降水がありました。

月別の日照は、平年比で６月は110％、７月は109％、８月は93％、９月は92％でした。特に、９月第１半旬は極端に日照が少なく、平年比で６％となりました。

２　令和４年産大豆の安定多収に向けたポイント～適期播種と良好な苗立ち確保するための降雨対策～

〔栽培初期のポイント〕
- 排水対策
- 種子消毒
- うね立て同時播種
- 播種が遅れた場合の播種量

播種適期は６月20日～７月５日（16日間）ですが、令和３年産においては、この時期に降雨の日が多い状況でした。

・１mm以上の降雨があった日数：11

・10mm以上の降雨があった日数：５

この結果、播種時期の断続的な降雨の影響により播種作業が遅れたほ場もありました。

適期播種ができたほ場ほど、収量が安定しやすいです。温暖化による極端な気候、降雨にいかに対応するかが安定多収に向けた近道になります。

１）排水対策

適期に作業をより行いやすくするため、また、良好な苗立ちのため、ほ場の排水性向上が有効です。

①額縁明渠の設置

地表水の早期排除のため、ほ場周囲に排水溝（明渠）を設置します。排水口は低く掘り下げて排水路につないでください。

②心土破砕

プラソイラ（右写真）やサブソイラにより浸透排水性を高めて下さい。

２）種子消毒

湿条件下で問題となる茎疫病や苗立枯病（ピシウム菌）に有効な薬剤を処理することで、苗立ちや初期生育を確保しやすくなりますので、種子消毒を励行してください。

３）うね立て同時播種

ロータリカバーに培土板･畝盛板･サイドリッジャー等を装着し、畝を立てながら播種する方法（畝立て同時播種栽培）です。発芽初期の湿害を回避しやすくなります。

４）播種が遅れた場合の播種量

播種が遅れた場合、収量の低下が懸念されます（下表）。

播種日	子実重 kg/10a	稔実莢数 莢／株	開花期	成熟期
6月21日	337	37	8月3日	10月22日
7月6日	292	35	8月11日	11月8日
7月20日	200	21	8月19日	11月15日

（栃木農試、2016）

近年、異常気象の中、降雨の影響によって播種できないケースが増えています。

播種時期が、７月中旬以降になる場合では、初期生育を確保し減収程度を軽減するため、播種量を増やしてください。

慣行の播種量は4.0～5.5kg／10aですが、２～３割播種量を増やします。

播種日	播種量 kg/10a	子実重 kg/10a	株当たり 粒数
7月21日	5.5	199	43.0
	6.9	264	40.1

（栃木農試、2009）

令和３年産水稲種子生産実績及び
令和４年産水稲種子生産計画

１　令和３年産水稲種子の生産実績（表１）

春先は天候に恵まれ順調な生育となりましたが、５月中の日照不足による生育への影響が懸念されました。また、８月中旬～９上旬月の降雨と日照不足により一部品種で倒伏が発生したことで品質は若干低下しましたが、数量については、契約対比100％と必要種子量を確保することができました。なお、なお、陸稲は令和３年産をもって県内採種を終了し、今後は県外からの移入となります。

２　令和４年産水稲種子の生産計画（表２）

令和４年２月14日に開催した令和４年産稲種子生産ほ場設置計画会議において、表２のとおり生産計画が承認されました。稲種子の需給状況や各種苗事業者（種子場JA）の生産状況を踏まえ、なすひかり、あさひの夢、とちぎの星、コシヒカリの面積を減らすこととしました。

（表１）　令和３年産水稲種子生産実績数量

単位:a, kg, %

品種名	ＪＡ名	面積	契約数量	実績数量	対比	合格・消毒	合格・未消毒	準・消毒	準・未消毒
コシヒカリ	なすの	17,400	696,000	696,000	100	214,000	482,000	0	0
	なす南	7,390	295,600	295,600	100	213,000	82,600	0	0
	小計	24,790	991,600	991,600	100	427,000	564,600	0	0
あさひの夢	しもつけ	8,900	391,600	392,220	100	181,000	211,220	0	0
なすひかり	しおのや	2,070	82,800	82,800	100	10,300	72,500	0	0
とちぎの星	しもつけ	4,100	180,400	180,400	100	107,500	72,900	0	0
	はが野	4,100	180,400	180,400	100	47,600	132,800	0	0
	小計	8,200	360,800	360,800	100	155,100	205,700	0	0
夢ささら	なすの	30	1,200	1,200	100	0	1,200	0	0
水稲うるち計		43,990	1,828,000	1,828,620	100	773,400	1,055,220	0	0
きぬはなもち	しもつけ	400	14,400	14,400	100	0	14,400	0	0
水稲もち計		400	14,400	14,400	100	0	14,400	0	0
水稲計		44,390	1,842,400	1,843,020	100	773,400	1,069,620	0	0
トヨハタモチ	はが野	50	1,000	1,260	126	0	0	0	1,260
陸稲もち計		50	1,000	1,260	126	0	0	0	1,260
合計		44,440	1,843,400	1,844,280	100	773,400	1,069,620	0	1,260

（有機栽培種子）

品種名	法人名	面積	契約数量	実績数量	対比	合格・未消毒	摘要
コシヒカリ	民間稲作研究所	130.0	1,560	1,320	85	1,320	
合計		130.0	1,560	1,320	85	1,320	

（表２）　令和４年産水稲種子生産計画

ア、品種別

単位:a. Kg

品種名	令和4年産種子生産計画			令和3年産種子生産計画			摘要
	面積	反収	数量	面積	反収	数量	
コシヒカリ	23,640	400	945,600	24,790	400	991,600	
あさひの夢	8,100	440	356,400	8,900	440	391,600	
なすひかり	1,670	400	66,800	2,070	400	82,800	
とちぎの星	7,500	440	330,000	8,200	440	360,800	
夢ささら	30	400	1,200	30	400	1,200	
きぬはなもち	400	360	14,400	400	360	14,400	
水稲計	41,340		1,714,400	44,390		1,842,400	
トヨハタモチ	0	0	0	50	200	1,000	
陸稲計	0		0	50		1,000	
	41,340		1,714,400	44,440		1,843,400	

イ、種子場別

単位:a. Kg

JA名	品種名	種子生産ほ場面積		反収	種子生産計画数量	摘要
		令和4年産	令和3年産			
なすの(黒羽) なすの(大田原)	コシヒカリ	16,590	17,400	400	663,600	
	夢ささら	30	30	400	1,200	
	計	16,620	17,430		664,800	
なす南	コシヒカリ	7,050	7,390	400	282,000	
しもつけ	あさひの夢	8,100	8,900	440	356,400	
	とちぎの星	3,750	4,100	440	165,000	
	きぬはなもち	400	400	360	14,400	
	計	12,250	13,400		535,800	
はが野	とちぎの星	3,750	4,100	440	165,000	
しおのや	なすひかり	1,670	2,070	400	66,800	
水稲計		41,340	44,390		1,714,400	
うつのみや	トヨハタモチ	0	0	200	0	
はが野	トヨハタモチ	0	50	200	0	
陸稲計		0	50		0	
		41,340	44,440		1,714,400	

（有機栽培種子）

品種名	令和4年産種子生産計画			令和3年産種子生産計画			摘要
	面積	反収	数量	面積	反収	数量	
コシヒカリ	100	130	1,300	130	120	1,560	民間稲作研究所

令和３年産大豆種子生産実績及び
令和４年産大豆種子生産計画

１　令和３年産大豆種子の生産実績（表１）

６月の降雨が平年を上回り播種作業が遅れた地域もあり、播種時期の早晩が、その後の生育や品質、収量に大きく影響しました。

梅雨明けは平年並みで中耕、培土等の作業は順調に推移したものの、８月から９月にかけての一時的な低温、日照不足が小粒化を、11 月の降雨がシワ粒等を誘発し、最終的な生産実績は、契約対比 78％となりました。

２　令和４年産大豆種子の生産計画（表２）

令和４年３月 28 日に開催した令和４年産大豆種子生産ほ場設置計画会議において、表２のとおり生産計画が承認されました。大豆は健康志向の高まりから国内の需要が堅調に伸びてはいるものの、大豆種子の需給状況や各種苗事業者（種子場 JA）の生産状況を踏まえ、生産計画数量は前年対比で微増としました。

（表１）　令和３年産大豆種子生産実績数量

単位：a, kg, ％

JA名	品種名	面積	契約数量	実績数量	対比	合格	準A	準B
なすの（大田原）	里のほほえみ	1,270	22,860	17,100	75	14,280	2,820	0
なすの（黒磯）	里のほほえみ	815	14,670	15,600	106	12,960	2,640	0
なすの（黒羽）	里のほほえみ	540	9,720	5,220	54	2,850	1,800	570
なすの　計		2,625	47,250	37,920	80	30,090	7,260	570
なす南	里のほほえみ	735	13,230	9,330	71	8,310	1,020	0
合　　計		3,360	60,480	47,250	78	38,400	8,280	570

（表２） 令和４年産大豆種子生産計画

ア. 品種別

単位:a, kg

品種名	令和4年産種子生産計画			令和3年産種子生産計画			摘　要
	面積	反収／10a	数量	面積	反収／10a	数量	
里のほほえみ	3,391	180	61,050	3,360	180	60,480	
合　計	3,391		61,050	3,360		60,480	

イ. 種子場別

JA名	品種名	種子生産ほ面積		反収／10a	生産数量	摘　　要
		令和4年産	令和3年産			
なすの(大田原)	里のほほえみ	1,210	1,270	180	21,780	
なすの(黒磯)	里のほほえみ	906	815	180	16,320	
なすの(黒羽)	里のほほえみ	540	540	180	9,720	
	計	2,656	2,625		47,820	
なす南	里のほほえみ	735	735	180	13,230	
合計		3,391	3,360		61,050	

令和４年度事業計画

公益社団法人　栃木県米麦改良協会

Ⅰ．事業方針

地球規模で拡大を続ける新型コロナウイルスによって、世界中で多くの人々が生命の危機と生活の困難に直面して早２年が経ちましたが、我が国においては現在も様々な分野に大きな影響を与えています。

特に農業においては、米の需給環境が大幅に悪化しており、この原因としては、コロナウイルス禍における外食需要の大幅な減少やインバウンド需要の後退などにより消費が減退し米の在庫が大きく膨れ上がり、過剰在庫が発生したためです。このため、令和３年産米の概算金・買取価格は全国的に大きく下落しました。

令和４年産米の需給均衡を図るためには、前年産から26万トンの減産が必要とされ、２年連続の大幅な作付け転換が必要な状況となっています。国は令和３年産で飼料用米の作付面積が急増したことから、令和４年産については、飼料用米以外の麦や大豆等の収益性の高い作物への転作を強く訴えていますが、生産現場からは戸惑いの声が広がっています。本県においても、県産米の需要情報を的確に把握し、より一層需要に応じた生産に努めていく必要があります。

一方、東アジアにおける巨大自由貿易圏構想である「地域的な包括的経済連携協定」(RCEP)が今年１月１日に発効し、我が国の関心が高い重要５品目（米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、甘味資源作物）について、日本側関税は全て除外されるなど、国際化も着実に進展しています。

こうした中、種子に関しては、令和２年４月に「栃木県奨励品種の優良な種苗の安定供給に関する条例」（以降、条例）が施行され、県や関係団体が一体となって、種子生産供給体制を維持・発展させる取組がスタートしました。当協会は条例に基づき「種苗生産等計画策定者」に指定されましたので、主要農作物の優良種子の安定供給対策や品質向上対策等を通して、水田農業の経営安定と所得向上が図れるように、令和４年度事業に取り組んで参ります。

主な取組事業として、優良種子の生産と安定供給対策事業では、従来の事業を継続して実施し、県の稲麦大豆生産振興方針の下、需要動向等を見極めながら計画的に生産を進めるとともに、昨年設置した「種子生産体制強化検討会」の内容の充実を図り、課題解決に向けた取組を進めます。

また、消費者・実需者から選ばれる主要農作物の生産と品質改善対策事業では、栽培技術指導資料の作成・配布や講習会等への助成事業、受検対策など従来の事業を継続して実施します。広報活動については、情報紙の発行やホームページの活用により、生産者や消費者に向けて情報を発信します。

Ⅱ．実施事業

１．優良種子の生産と安定供給対策事業

主要農作物生産の基礎となる優良種子の生産と安定供給を図るため、計画的な種子生産や生産指導と品質向上、種子の安定供給、品質管理、種子生産体制の強化、などを実施します。

（１）種子の生産

事前予約された需要数量を基本に、流通動向、新品種の振興計画、備蓄数量などを勘案して県・関係機関と協議の上、「種子生産計画」を策定し、種子の生産にあたります。令和４年産種子生産計画は別表１のとおりです。

〈主な事業〉

・種子生産計画の策定
・作付品種の許諾契約締結
・種子生産者と採種ほ場面積の確保
・他県との連携による種子生産の受委託

（２）生産指導と品質向上

種子生産ほ場での生育状況や生産見込数量などを的確に把握するため、ほ場確認等へ参加するとともに各種研修会の開催、種子伝染性病害等防除への助成を行い、種子生産技術及び品質の向上を図ります。

また、種子検査見本品の作製・配付や調製程度確認会を開催し､優良種子を確保します。

〈主な事業〉

・ほ確認会、生産物確認会、下見指導会、農産物検査への立会・参加
・種子品質向上研修会や種子生産研修会の開催
・栽培講習会への参加
・種子伝染性病害等防除への助成
・GAPシートの配布
・種子検査見本品の作製・配付と調製程度確認会の開催

（３）混種事故防止対策

混種事故防止対策については、各種対策に取り組み、コンタミ防止の徹底に取り組みます。

〈主な事業〉

・種子GAPの実践促進や異品種混入防止チェックシートの配付
・種子生産者の１品種作付け推進
・原種消毒および原種専用ネット使用の指導
・収穫等機械の共同利用の促進

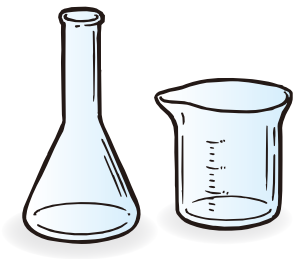
（４）品質管理

種子の品質管理を適切に行うため、稲種子の DNA 分析を実施し、併せて混種事故を防止します。

なお、備蓄種子の発芽試験等を行い、品質を確保します。

〈主な事業〉

・稲種子DNA分析・調査の実施
・備蓄種子の発芽試験の実施



（５）優良種子の安定供給

需要に応じた優良種子の安定供給を図るため、関係機関・団体とともに種子需要動向を把握し「種子需給計画」を策定するとともに、不測の事態等に備え計画的に種子の備蓄（低温保管）を行います。

〈主な事業〉

・種子需給計画の策定
・計画的な種子の備蓄（回転備蓄）
・種子消毒の実施（備蓄種子の消毒含む）
・残量処理の実施（発生に応じた処理と需要生産者の費用負担）
・事故処理の実施（発生に応じた処理と種子生産者の費用負担）事故処理に備えて、種子生産者から１円／kgを預かります。

（６）種子生産体制の強化

種子の安定供給を支えるため、種子場農協交付金を従来どおり交付します。

また、県が設置する「種子生産体制強化検討会」に参画し、種子生産者や種子場JA、種子センター等の現状と課題を踏まえた種子生産体制強化方針について検討を進めます。

〈主な事業〉

・種子場農協交付金の交付
・「検討会」での種子生産体制強化方針の策定への参画
・種子センター生産体制の検討
・優良種子生産部会の表彰

２．消費者・実需者から選ばれる主要農作物の生産と品質改善対策事業

主要農作物を栽培する一般生産者向けの栽培技術指導と品質改善対策について、「栃木県稲麦大豆安定生産推進会議」が策定した栽培技術指針等に基づき、以下の事業を実施します。

（１）栽培技術指導及び品質改善対策

主要農作物の栽培技術向上や品質の改善、病害虫の防除を図るため、県・関係機関の指導を得て、適切な栽培技術指導及び品質改善指導資料を作成し生産者に配付します。

また、安全・安心な高品質・良食味の農産物を生産するため、地域の生産者を対象に地方農業振興協議会が実施する各種講習会に助成します。

（２）受検対策

栃木米品質の高位平準化と円滑な受検の実施を目的に受検対策会議を開催し、事前指導事項の徹底を図ります。

・米受検対策会議の開催
・受検指導資料の作成配付

３．広報活動

関係機関等の指導者が生産者を指導する際に活用して頂くため、協会情報紙「とちぎ 米麦改良」を発刊・配付します。

また、当協会ホームページにて生産者や関心のある一般消費者向けに生産技術等各種情報を提供します。

４．令和４年度主な事業活動予定

別表２のとおりです。

別表１　令和４（2022）年産主要農作物種子生産計画

（単位：a、kg）

種類	品種名	計画面積	計画数量(A)	3年産生産計画数量(B)	前年産比(A)/(B)
水稲	コシヒカリ	23,640	945,600	991,600	95%
	あさひの夢	8,100	356,400	391,600	91%
	なすひかり	1,670	66,800	82,800	81%
	とちぎの星	7,500	330,000	360,800	91%
	夢ささら	30	1,200	1,200	100%
	きぬはなもち	400	14,400	14,400	100%
	小計	41,340	1,714,400	1,842,400	93%
陸稲	トヨハタモチ	0	0	1,000	0%
	小計	0	0	1,000	0%
	水陸稲計	41,340	1,714,400	1,843,400	93%
六条大麦	シュンライ	3,670	104,600	102,600	102%
二条大麦	ニューサチホゴールデン	21,300	692,250	692,250	100%
	とちのいぶき	500	18,000	18,000	100%
	小計	21,800	710,250	710,250	100%
小麦	さとのそら	1,700	61,200	61,200	100%
	イワイノダイチ	800	26,400	26,400	100%
	タマイズミ	1,800	59,400	59,400	100%
	ゆめかおり	900	22,500	22,500	100%
	小計	5,200	169,500	169,500	100%
	麦類計	30,670	984,350	982,350	100%
大豆	里のほほえみ	3,391	61,050	60,480	101%
合計		75,401	2,759,800	2,886,230	96%

有機種子	コシヒカリ	100	1,300	1,560	83%
水稲	とちぎの星	0	0	600	0%

別表２　令和４（2022）年度主な事業活動予定

実施事業	事業活動の展開												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
種子取扱会議	○												
種子品質向上研修会					○								
種子生産研修会											○		
採種ほ設置計画会議					○麦						○稲	○大豆	
調製程度確認会			○麦				○稲		○大豆				
受検対策会議				○									
ほ場確認会	○麦 →	→	→	○稲 →	→	○大豆 →	→	→					
生産物確認会・検査・下見会			○麦 →	→			○稲 →	→	○大豆 →	→	→		
混種事故防止対策	○ →	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	重点事項
発芽調査			○麦 →	→			○稲 →	→	○大豆 →	→			
備蓄種子残量処理										○ →	→	→ ○	
事故処理													発生の都度
技術指導資料作成配布	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	適時
助成金・交付金						○ →	→	→		○ →	→	→ ○	
「とちぎ米麦改良」の発行		○				○				○			
協会ホームページ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	通年掲載
総会			○									○	
理事会			○					○				○	
幹事・事務局員会議		○						○			○		

（公社）米　麦　改　良　協　会　情　報

○種子生産研修会をWEBで開催しました。

優良種子の生産と安定供給を図るための課題共有と生産技術の向上等を図るため、毎年２月に研修会を開催しています。今年度は開催時期において、新型コロナウイルスの感染拡大が続いている状況を踏まえ、種子生産者の参加を見送り、種子生産JA担当者を対象としたWEB研修会を令和４年２月25日に開催しました。

◆講演概要

講演では、県経営技術課より、「本年の稲、麦類及び大豆の種子生産の振り返りと品質向上対策」、「改正種苗法の概要及び留意点」について詳細な説明をいただきました。

講演の様子

◆部会表彰

優良種子の安定供給と品質向上を図るためには、種子生産の重要性を生産組織全体が認識し、採種技術の高位平準化と意識の高揚が重要になります。このため採種事業に積極的に取り組み、貢献された組織に対し優良種子生産部会として表彰しています。

今年度については、次の４部会を表彰しました。

①稲種子の部

「はが野農業協同組合　市貝地区採種部会　様」

令和２年産より「とちぎの星」の生産を開始し２年目となりますが、生産者の努力により契約達成率100％・合格率100％となり、数量・品質ともに安定しております。

②麦類種子の部

「塩野谷農業協同組合　麦種子生産部会　様」

需要が高まっているパン用小麦「ゆめかおり」を生産し、生産者の努力により契約達成率112％となり、麦種子需給の安定に大きく貢献しました。

③大豆種子の部

「那須野農業協同組合　麦大豆部会　黒羽支部　様」

「那須野農業協同組合　下中野大豆組合　様」

両組織は大豆「里のほほえみ」を生産し、生産者の努力により契約達成率・合格率とも100％を上回り、数量・品質ともに安定しております。

WEB開催とはなりましたが、講演並びに部会表彰により、関係者一同で『優良種子の生産と安定供給及び品質向上』という目標を改めて確認することができました。

○第27回臨時総会を開催しました。

令和４年３月25日に第27回臨時総会を開催しました。令和４年度事業計画並びに収支予算、役員（理事）の選任、令和４年度会費並びに徴収方法の決定、令和４年度借入金最高限度額、令和４年度役員報酬額、令和３年度補正予算について協議され、原案通り承認されました。

○常務理事の異動

令和４年４月１日付けで着任しました。よろしくお願いします。

役職名	新	旧
常務理事	岸　　洋助	原　　利浩